

深める

① 場面や人物の描写から気持ちの変化を読み取る 初め〜27 ⑤

「なんや、また気が重そうな顔して。」
朝食にみそ汁やら焼き鮭やらを並べながらばあちゃんが言った。

「胃が痛いんだ。」とおなかを押さえて答える僕に、「そこ、胃じゃなくて腸や。」とばあちゃんが笑った。

小学校卒業と同時に、僕はばあちゃんの家につっこしてきた。転勤が多い父さんは新しい住まいを探すのはもったいないと、ばあちゃんの家での同居となったのだ。父さんもパートで働く母さんも朝早くから仕事に出てしまうから、朝ご飯から夕方まではばあちゃんと二人だ。

④「転校なんて、明生、慣れたもんやろ。それに今回は中学入学と同時に腸や、ちよちよいのちよいや。」
「中学入学って言ったって、だいたいみんな小学校からの仲間なんだ。簡単にいくわけないだろ。」

「そんなん言うたら、ばあちゃんなんか、こないだパッチワークの展覧会を乗り切ったと思ったら、再来週にはフラダンスの発表会や。次々と困難がやって来る。」

ばあちゃんはそう言うのと、勢いよくみそ汁を飲んだ。
小学校で二回、それに今回。僕は通算三回も転校をしている。「父さんの仕事の都合」、それだけの理由で、遊び慣れた場所とも気が合う仲間とも、あっさりさよならだ。僕ら子供は、意思

と関係なく無理難題をふっかけられる。好き勝手にやっているフラダンスやパッチワークといっしょにされちゃ困る。

「いつまでもぼそぼそ食べてんと、おなか痛いんやったら、梅干し食べとき。」

ばあちゃんは僕の皿に梅干しを乗つけると、片づけのために立ち上がった。捻挫に頭痛に腹痛。ばあちゃんは何でも梅干しでよくなると思っっている。



(丹下京子 絵)

物語文

読解のポイント

① 場面をとらえる

場面は、中心人物の行動や状況から押さえよう。

- 【中心人物のとらえ方】
①どの人物の立場で書かれているか。
②出来事の中心人物はだれか。

「花曇りの向こう」の中心人物 → 「僕」。語り手でもある。

【行動や状況のとらえ方】
心の動きや会話・出来事などに着目する。

② 人物の行動や会話から気持ちを読み取る

人物の気持ちには、直接的に表現されたものと、間接的に表現されたものがある。

【人物の気持ちのとらえ方】

- ①直接的な表現
・「うれしい」「悲しい」「胸がいっぱいだ」など気持ちを表す言葉で示している場合。
・「～気持ち」などの言葉で示している場合。
・心の中で思ったことが語られる場合。
②間接的な表現
・表情や態度、会話や動作を通して示している場合。

間接的な表現は、前後の文章や場面の様子に注意して、かかれた気持ちを読み取ろう。

「僕は俊敏に体を動かした。」(p.29)の前の文に着目。
→「僕はバスケットは得意だった……かもしれない。」
みんななじむきっかけを作ろうと張り切る気持ちが表れている。

① 上の場面について、時・場所・登場人物を整理しなさい。

時
場所
登場人物

② 「気が重そうな顔」を「僕」がしていたのはなぜですか。

問題文に「なぜですか。」「どうしてですか。」と書かれているときは、「～から。」「～のため。」などと答えよう。

③ 「そこ、胃じゃなくて腸や。」とばあちゃんが笑った。」とありますが、その様子から、ばあちゃんのどんなことがわかりますか。

- 次から一つ選びなさい。
ア 「僕」の冗談をとてもおもしろがっていること。
イ 「僕」のまちがいにおどろきあきれていること。
ウ 「僕」の真剣なうったえに気づいていないこと。
エ 「僕」の真剣なうったえを受け流していること。

④ 「僕はばあちゃんの家につっこしてきた。」とありますが、引っこしの理由が書かれている一文を抜き出し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。(句読点をふくむ。)

〃

⑤ 「転校なんて、明生、慣れたもんやろ。」とありますが、「僕」にとって今回の転校は何回目ですか。

回目

⑥ 「簡単にいくわけないだろ。」について、次の問いに答えなさい。
(1) 「僕」が「簡単にいくわけない」と思っているのは、どんなことですか。

〃

(2) 「僕」が、(1)のことをいかに難しいと考えているかがわかる言葉を、文章中から四字で書き抜きなさい。

慣用句 犬も食わない=なんでも食べる犬でさえ食べないという意味から、だれも取り合わない様子。

慣用句 うのみにする=鳥の「う」が魚を丸ごとのみこむ様子から、深く考えもせず、人の言葉をそのまま受け入れること。

物語文 読解スタートページ

深読み

場面や人物の描写から気持ちの変化を読み取る 27⑥〜29⑧

「おはよ。」とつぶやきながら教室に入ると、同じようなぼりとした反応が返ってくる。中学生活が始まって三週間。僕にはまだ友達といえるものほできていない。小学校のときはもう少し簡単だったはずなのに、なかなかうまくいかない。

「今日も曇りやな。じいちゃんが花曇りって言ってたけど、四月は意外と天気悪い日が多いねんな。」

座席に着くと、となりの川口君が声をかけてきた。川口君は毎朝、先生が来るまでの間話しかけてくる。けれど、それはいつだってうまくつながらない。

「あ、ああ。そうなんだ。」

それで会話は終了。川口君も僕もさつきより空気を持って余して、窓の外を見つめるしなくなってしまう。

「これで桜が全部散ってしまうな。」と言えよよかったとか、「花曇りって何。」ときけばよかったとか。思いつくのは後になってからだ。晴れることを放棄したようなぼやけた空に、僕は今日も生ぬるい息をはいた。

「こつちこつち、パス。」

か細い雨が降っているせいで、今日の体育はバスケットボールだった。まだなじんでない仲間とのチーム競技は、なかなか厄介だ。だけど、僕はバスケットは得意だった。今日はなんと

かなるかもしれない。僕は俊敏に体を動かした。敵のボールをカットすると、わっと歓声が起こった。チャンスだ。はやる気持ちを抑えて、ドリブルしながら辺りをうかがう。ゴール下にはみんながあふれているけど、左にずれた山崎君の前だけばかりと空いている。ここだ。僕はねらいを定めて、するどいボールを送った。いいパスだったはずだ。ところが、山崎君の手に当たって、ボールはぼとりと落ちた。今日もわずかなとっかかりはするりと抜け落ちていった。



物語文

読解のポイント

3 情景描写に着目する

人物の心に映った風景や様子を、「情景」という。目の前の風景が同じであっても、そのときの人物の気持ちによって、ちがったものとして見えることがある。

【情景描写の例】

「僕たちは家路を急いだ。空には真っ黒な雲が広がっている。」→不安な気持ち

この情景では

「花曇り」の情景は、前半では「僕」の重たく晴れない気分を映し出すようだったが、最後はぼんやりとしながらも前向きなイメージも感じさせるものになっている。

1 「おはよ。」を音読するときには、どんな感じで読むといいですか。次から一つ選びなさい。

- ア 明るい感じ。 イ 泣きそうな感じ。 ウ 暗い感じ。 エ おこっている感じ。

2 川口君は毎朝、先生が来るまでの間話しかけてくる。」とありますが、それはなぜですか。考えて簡潔に書きなさい。

3 「それで会話は終了。」について答えなさい。

(1) 「僕」が後になって思いついた川口君への返事の言葉を、文中から二つ書き抜きなさい。(句読点や符号をふくむ。)

(2) 会話が続かず気の重い「僕」の心情は、どんな行動に表れていますか。文章中の言葉を使って二つ書きなさい。

4 「花曇り」について、このときの「僕」は、どんな空だと表現していますか。それがわかる部分を文章中から十八字で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

5 「まだなじんでない仲間とのチーム競技は、なかなか厄介だ。」とは、どういうことですか。次から一つ選びなさい。

- ア 自分がバスケットは得意であるとかわかってもらえないこと。 イ なじんだ仲間以外の人は、パスを回してもらえないということ。 ウ 仲間の性格を知らないの、チームワークをとりにくいこと。 エ 仲間の実力がわからないので、絶対に勝てないということ。

6 「チャンスだ。」とありますが、このとき「僕」はどうなることを期待していましたか。文章中の言葉を書きなさい。

7 「わずかなとっかかりはするりと抜け落ちていった。」とありますが、このときの僕の気持ちを次から一つ選びなさい。

- ア 自分の送ったパスを山崎君が落としたことに腹を立てている。 イ みんなになじむ機会だったのにうまくいかず落ち込んでいる。 ウ 自分のバスケットの腕前が少しも通用せずやがっている。 エ みんなよりもバスケットが得意だとわかって、満足している。

物語文

読解スタートページ

慣用句 おくびにも出さない=「おくび」はげっぷのこと。心に秘めて、そぶりにも見せない様子。

慣用句 さばを数む=魚市場でさばを数えるのに、急いで数えて数をごまかすことがあったことから、利益を考えて実数をごまかすこと。

書くアドバンス 自分の考えをもとに

「花曇りの向こう」という題名には、どんな意味がこめられていると思いますか。次の条件に従って、あなたの考えを書きなさい。

条件1 「僕」の気持ちの変化についてふれながら書くこと。
条件2 原稿用紙の使い方に従って、百二十字以内で書くこと。

Grid for writing the response to the prompt.

課題作文ナビ

示された条件に従って書く作文を、「課題作文」といいます。次のポイントを押さえて、自分の考えを書き表しましょう。

- 1 課題の内容と条件を確認する
2 課題に対する自分の考えを整理する
3 原稿用紙の使い方に気をつけて書く

書きだしや段落の初めは、一ます下げろ。
例: 竹田君が私に言った。「それは貴重な経験だね。僕も見えたかった。」

4 書いたら見直す

- 書き終えたら、次の点に注意して読み直します。
① 課題の内容に沿っているか。
② 指定された条件を全て満たしているか。
③ 原稿用紙の正しい使い方に沿っているか。
④ 誤字や脱字、文章のつながりにおかしなところはないか。

一回目以降の「書くアドバンス」には、巻末のナビを使いましょう。

物語文 読解スタートページ

Table with 4 columns: 第四の場面 (29⑭~終わり), 第三の場面 (28⑭~29⑬), 第二の場面 (朝の教室 27⑩~28⑬), 第一の場面 (ばあちゃんの家での朝食 初め~27⑩). Each cell contains text and blank boxes for analysis.

場面

場面を整理し、「僕」の気持ちの変化をとらえる

「僕」の様子や行動など

「僕」の気持ち

慣用句 一巻の終わり = 一巻の物語が終わるという意味から、続いてきた物事が一挙に終わること。特に、死ぬこと。

慣用句 一目置く = 固基で、弱い方が先に石を一つ置いて始める意味から、自分よりすぐれた人に敬意を払うこと。